S2-2　産婦人科領域の心身医療

寺内 公一
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 女性健康医学講座 准教授

心身症の有病率は女性に多いことが知られており、気分障害や神経症性障害がそうであるように、初経・月経周期・妊娠・分娩・産褥・閉経など女性に宿命づけられた多様な内分泌変動がその発症に大きく寄与することが推定されている。心身医学的な視点からの取り組みが必要な産婦人科領域の問題としては、

(1) 神経性食欲不振症などの摂食障害と体重減少に起因する無月経、
(2) 月経困難症や月経前症候群・月経前不快気分障害など月経周期に伴って起こる様々な症状、
(3) 不妊症とその治療における心のケア、
(4) ハイリスク妊娠や出生前診断に関する心のケア、
(5) 産褥期精神障害と母子関係の障害、
(6) 慢性骨盤痛や外陰痛などの内外性器に関連する疼痛、
(7) 更年期障害、
(8) 婦人科悪性腫瘍とその治療における心のケア、
(9) intimate partner violence と性暴力被害、
(10) 思春期から老年期までの性行動と性機能障害、

などが挙げられる。

心身医学的な治療の原則はあらゆる分野に共通と思われるが、特に上記のように内分泌変動が病態に大きく寄与していると推定される場合にホルモン療法が選択肢の一つとなることが産婦人科領域の心身医療の大きな特徴であり、月経前気分不快障害に対する経口避妊薬の投与はその一例である。一方で上記の様々な病態に対して外科的治療を選択することは、明らかな子宮内膜症による月経困難症など少数の例外を除いては、少ない。多忙な日常診療の中で心理療法などに十分な時間を割くことが難しく薬物療法偏重となる点や、更年期障害のように排他的な診断基準を持たない疾患概念が “wastebasket diagnosis” となって多くの境界領域の患者が包摂され診療が長期化する点などは、他科にも共通する課題と思われる。本シンポジウムではこれらの諸点につき、横断的な議論によって理解を深める機会にしたいと考えている。

略　歴

1994年 東京医科歯科大学医学部卒業。東京医科歯科大学医学部附属病院、国保旭中央病院、都立大塚病院産婦人科にて研修。

2003年 医学博士。

2005年 米国エモリー大学内分泌代謝内科リサーチフェロー。

2012年4月より現職。

日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医、日本女性医学学会幹事・代議員・認定女性ヘルスケア専門医、日本女性心身医学会幹事長・評議員・認定医、北米閉経学会（NAMS）認定医。